

全 刀 商

全国刀剣商業協同組合 年報

第 25 号



表紙解説		1
■『全刀商』第25号に寄せて		2
新しい時代への備え	深海信彦	2
全刀商の未来	猿田慎男	3
『刀剣界』の次の事業に向けて	冥賀吉也	3
組合創立30年を前に	清水儀孝	4
組合ホームページ	服部晁治	4
■特集／全刀商と私の過去・現在・未来		6
私の現在、そして未来	佐藤 均	6
未来への贈り物	嶋田伸夫	6
全刀商と私	生野 正	7
後に続く若人へ	瀬下 明	8
変化の中の人材育成	松本義行	8
刀剣界奇譚	綱取譲一	8
刀剣商「昨日・今日・明日」	持田具宏	9
■業界関連情報詳説		10
日刀保と当組合とが意見交換	嶋田伸夫	10
「大刀剣市2015」事前説明会開く	清水儀孝	11
第28回「大刀剣市」開催される	清水儀孝	12
「大刀剣市」の歴史を刻むカタログとその制作プロセス	冥賀吉也	13
「わが家のお宝鑑定会」を担当して	赤荻 稔	14
「大刀剣市」会場の設計と設営について	嶋田伸夫	15
シンポジウム「文化省創設への道筋」を開催	伊波賢一	17
登録証問題を考える	登録証問題研究会	18
■第29回通常総会		20
議事	清水儀孝	20
平成27年度事業報告		21
平成28年度事業計画		23
■新組合員・賛助会員紹介		24
■平成28年度役員・委員会構成		25
■平成27年度組合活動の記録		26



弥次喜多道中桑名図目貫 無銘 東龍齋派
江戸時代後期 武蔵国江戸
金無垢地容彫置金色絵
表目貫：36.2mm 裏目貫：36.4mm

ご存じ、十返舎一九作、弥次郎兵衛と喜多八（北八）の道中記「膝栗毛」。江戸八丁堀を振り出しに、名所旧跡を訪ねつつお伊勢参りをし、さらに足を延ばして京、大坂を訪ね、金刀比羅宮、安芸の宮島、善光寺をお参りし、草津温泉まで旅をする。享和2年（1802）に初版を出した「膝栗毛」は人気を博し、世に空前の旅行ブームを巻き起こした。続編に次ぐ続編で、弥次さん・喜多さんは21年もかかって江戸へ帰るのである。

本作は、桑名と其の手前御油宿から赤坂宿までを描いたものであろう。愛嬌のあるふっくらとした頬の女が団扇で煽ぐその先には、桑名名物松葉で焼いた焼き蛤。作中では弥次さん喜多さんも舌鼓を打つが、ふざけ合っているうちに熱々の蛤を盛ったお皿をひっくり返し、お腹を火傷してしまうというおまけ付き。

松葉の間から素銅の炎がチョロチョロと見え、大きな蛤は少し口を開け始めている。香ばしい匂いが漂ってきそうである。重ねた着物の量感と質感、籠の網目模様、足の先には小さな爪が並んでいて描写は詳細で巧み。

もう一方は、大きな松の幹を両腕で抱える弥次さんと喜多さん。東海道五十三次35番目の宿場「御

油宿」から次の「赤坂宿」まではわずか16町（約1.7km）。その街道沿いには見事な黒松の並木が続く。慶長9年（1604）徳川幕府の街道整備として、家康の命を受けた大久保長安が植樹したものである。

余談であるが、相互の距離が短い御油と赤坂では泊まり客の争奪戦もあったようで、その様子は歌川広重の「東海道五十三次 御油旅人留女」（1833～34年）に詳しい。

さて、この松並木の街道で、弥次さんは喜多さんを化け狐と勘違いして縛り上げてしまうのである。旅姿の2人を一方は素銅地、他方は銀地と描き分け、1ミリにも満たない小さな目には瞳が彫り込まれ、ごつごつとした松の幹には力強く三角鑿が打ち込まれている。卓越した技量と垢抜けた雰囲気、根と力金の仕立てから無銘ながら東龍齋派と極められた本作は、金無垢地容彫を置金色絵とした豪華なもの。

「膝栗毛」とは膝を栗毛の馬の代わりにして旅する徒歩旅行のこと。インターネットで検索すれば世界中のあらゆる情報が瞬時に手に入り、3D画像ではその場に行かずとも臨場感たっぷりの映像体験ができる現代社会。交通手段も発達し、「歩く旅」とは縁遠くなってしまったわれわれだが、本作を見て江戸時代の旅に思いを馳せてみたい。（立野朱美）

新しい時代への備え

理事長
深海 信彦

どのような社会にも先駆者、指導者があり、それらの人々の崇高な理念と行動力、そして自己犠牲による成果は次の世代に受け継がれ、その時々々の良き指導者によってさらに成熟したものになり、多くの人々に物心両面にわたる利益をもたらすことになる。

私たち刀剣社会においても同様なことが言え、昔のことはわからないまでも、終戦後の昭和20年代以降、刀剣の保存法や審査制度などについては多くの指導者の名が語られ、また書物にも記されている。業界においても、その時々々の刀剣商の知恵と努力によって今日のわれわれの取引方法のあらゆるシステムが^{なりわい}つくり上げられ、おかげで刀剣商としての生業が維持できているのである。

そして、どのような制度や仕組みについても、それらの構築に尽力した当の本人は、必ずしもそれをやらなければ自らに不利益を招く立場にはなく、むしろ刀剣社会のため業界のために働いている例が多く、まさに、希求しながらも果たせない人々の代わりにそれを成し遂げる努力をしてきたと言えるのである。

われわれの業界においても、商売をしていく上でさまざまな不合理に直面する場合や、有利な制度に参加したい希望は数々あっても、個人の力ではほとんどのことは成し得ず、自分に代わり、自分にとって有利となることに取り組んでくれる人が出現してくればそれに越したことはないのである。しかし、多くの人は自分自身のためにはどのような努力も惜しまないが、他人のためにまで自己に犠牲を強いることはしない。

平成の今日においては、なおさらその感を深くせずにはいられないが、立派な先人に倣い、社会・業界のために自分の時間を割き、できない人に代わって努力を続けている人は皆無ではない。業界の先輩たちが駆伝競技のように各区間の責任を果たし、駆け抜けていったと同様に、自分たちもその任に当たっている区間は最大限チームのために尽くし、次の新しい走者へ引き継ぎ、より良い刀剣業界の将来

を願っている者もいる。それが設立29年を経た組合であり、その時々々の理事・役員・委員である。

日ごろは自己の営業に全力を注ぎながらも、ひとたび組合のこととなると、時間を忘れてその活動に没頭する。そのような志のある人々によって、組合は今日まで継続してきた。そして今、新しい時代への備えとして交換会、大刀剣市に次ぐ第三の事業である資格検定事業へと乗り出した。

この事業こそ、困難な事業展開に取り組んでいる現職の理事への還元は直ちにはなく、まさに将来の刀剣業界のため、将来の刀剣商の社会的地位の向上、ひいては事業の発展のために有益であると信じての発起である。この資格検定事業は、刀剣の鑑定・評価・古物営業法・銃刀法・甲冑・作刀・研磨・刀職ほか、刀剣に関する多岐にわたる知識を問う検定で、合格者には「刀剣評価鑑定士」の資格を授与するという制度である。

組合事業では決して目新しい事業ではなく、全国中小企業団体中央会がまとめた平成27年度の集計によれば、商工組合が現在実施している事業としては、組合員の福利厚生に次いで資格事業に関わる指導教育が2位、3位は資格事業に関する情報収集・提供である。また、今後重点的に取り組みたい事業の第一に「資格事業における指導・教育」(14.5%)が挙げられており「共同購入・仕入」(8.9%)や「共同宣伝・販売促進・イベント」(8.5%)を大きく上回っている。

わが組合は29年の時を経てこの事業に踏み切ったが、事を始めるのに遅過ぎるということはなく、始めたその時が好機であり、全理事・委員が一丸となってこれに取り組み、次の走者にリレーのタスキを繋ぐべく、今スタートしたのである。現在の理事・役員にはさほどの走力はなくとも、次の走者はあるいは韋駄天の走りをしてくれるかもしれない。その期待を込めて、小さな事業ではあるかもしれないが、われわれは大きな一歩を踏み出したのである。これが新しい時代への備えとして最重要課題であると信じて。

全刀商の未来

副理事長
猿田 慎男

この度の熊本地方における震災に遭われた多くの方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

私は初期の支援活動として、水・ブルーシート・トイレトペーパーの物資と、ちょうど5月5日の端午の節句を前にしていたので、心の支援として鯉幟を携え、熊本県宇土市に行ってきました。

なぜ宇土市かと言うと、宇土市は泉州堺出身の豪商・戦国武将・キリシタン大名であった小西行長の居城跡があった所で、私の住む堺とのつながりが深いためにその地を選んだわけであります。

過去の震災もそうですが、今回の熊本地震も被害範囲が広く、当初、熊本市の災害支援物資集積場はすぐに満杯になり、受け付けを中止してしまいました。物資集積場から現地に運ぶ手段がないので、仕方ないことです。また、この地は永い間災害に遭わず、対応に不慣れな面もあったと思います。阪神淡路・東日本・和歌山大水害と支援活動を行ってきた私としては、この度も使命感に奮い立ち、体が自然に動きました。

印象的だったのが、難攻不落の名城熊本城の無惨な姿でした。石垣や櫓が崩れ落ちた熊本城を目の当たりにして、刀装具の画題によく使用されている「嵯閣山水図」が思い起こされました。形あるものはいつか壊れることを痛感した次第です。

その後、義援金の募集を同業者・各団体に呼び掛けたところ、とても気持ち良く応えていただきました。ほとんどの市場・団体から義援金が集まった訳は、わが業界の力強い結束力のお陰であり、「全刀商で取りまとめて行います」の一言が業界の市場・団体を動かしたのだと思います。全刀商の役割が既に業界に浸透している確固たる証拠ではないでしょうか。

私はこの度、ご支援していただいた各団体が全刀商に加入していただき、業界が一丸となって日本が誇る刀剣武具を伝承できる団体に躍進していくことを望む次第であります。その時こそ「全国」を冠するにふさわしい「全国刀剣商業組合」が誕生するのではないのでしょうか。その日が1日でも早く実現することを望み、ペンを置きます。

『刀剣界』の次の事業に向けて

副理事長
冥賀 吉也

深海理事長が就任されて、早いもので5年が経過した。最初に着手された事業が『刀剣界』の発行であった。『刀剣界』は今回で30号を迎える。

その送付先は組員・賛助会員はもとより、関係機関、全国の美術館・博物館、それに購読希望の方々へと及び、合わせて2,200部となっている。加えて全刀商のホームページにすべてのバックナンバーが配信され、今では刀剣関係ニュースの「源」とも言われるほどに成長した。

毎号の編集会議では理事長自ら陣頭指揮を執られ、紙面の充実に努力されている。さらに2回に及ぶ校正会議でも全記事の内容をチェックし、一字一句怠りないよう各委員を促し、発行後は反省会を兼ねた慰労会も設けていただいている。

さて、第29回通常総会も5月17日に無事終了した。議案中、総務委員会の事業活動の「資格事業に関する指導教育並に情報の収集と提供」と題する説

明が行われ、了承された。

これは一口で言うと「刀剣評価鑑定士」の資格検定事業を全刀商が行うという内容である。将来の組合および組員にとって実に有意義なことであり、ぜひ実現したい事業である。

「刀剣評価鑑定士」とは、刀剣類を売買するわれわれ業者にとっては国家資格に準ずるものでもある。この資格は、誰でも簡単に取得できたら価値がない。そのためには、刀剣類・刀装具類・甲冑類等々の幅広い知識に加え、古物営業法や銃砲刀剣類所持等取締法（銃刀法）などの必要最小限の法令も知っていただかねばならない。

現在、理事長を座長として全理事が一丸となり、教材や問題集の作成などに取り掛かっている。47年間刀剣商として携わり、その間に得た知識を絞り出し、この事業の成功に微力ながら貢献したい。

組合創立30年を前に

専務理事
清水 儀孝

今回で29回目を迎え全国刀剣商業協同組合の総会において、組合員の皆さまのご協力ですべての議案を承認可決することができました。

早いもので組合の創立から、来年で30年を迎えようとしています。昭和62年5月15日に創立総会を開催し、同年9月24日、中曽根康弘内閣総理大臣より協同組合として正式に認可されました。初代理事長には柴田光男氏が就任され、続く2代理事長に荒勢英一氏が就任されて組合の屋台骨を築き上げました。初頭の役員ならびに諸先輩の長年にわたるご尽力で現在つつがなく組合運営を行っています。

30年前はパソコンもあまり普及しておらず、携帯電話など特定の人を持つだけでした。また絵画の世界では、当時の安田生命がゴッホの「ひまわり」を53億円で購入した時代でした。全国刀剣商業協同組合が発足した昭和62年は、日本中がバブル景気に沸いていました。

組合の事業は、①経済委員会②金融委員会③総務委員会の3委員会構成で、平成28年現在の組合員数は177名、賛助会員数は80名です。

経済委員会の市場運営事業「通常交換会」は年間12回開催しています。予算達成のために努力してきましたが、今一步の努力が必要な状況でした。経済事情や今までの状況が続くのであれば、組合交換会の運営方法や開催回数をより良い方向に転換していかなければならない時期に来ていると思われま

す。一方「大刀剣市」は順調な業績を挙げていますが、出店は74店舗と会場の許容量の限界であり、来場者に対する安全や、実行委員会の負担を考慮すると、

これも見直しをする時期に来ていると思われま

す。大刀剣市イベント企画「我が家のお宝鑑定会」は古物営業法の改定により会場での買い取りができず、評価鑑定希望者も残念ながら減少傾向であります。

昨年度は、全国美術商連合会に組合員のほとんどの皆さまに加入していただきました。また理事定年制を導入しましたが、それが今後の組合活動にどのように影響するかは未知数であります。

今期は理事長の発案である「全国刀剣商業協同組合資格検定事業」が理事会で承認され、総会で事業計画決定の件で可決されました。新聞等でよく目にするビジネス資格試験ですが、多くの業界で資格検定事業を進めています。わが組合も刀剣商の社会的信頼と地位の向上を図り、日本刀の価値を広く後世に伝えていくことを目指して「刀剣評価鑑定士」検定事業に取り組んでいきます。

当面は組合員の皆さまに限定する専門資格ですが、近い将来には、日本刀に興味を持つ一般の方々をも対象とする資格に発展させていきたいものです。それが今後の組合活動の大動脈になることを目指していこうではありませんか。

来年は組合も30周年、そして公益財団法人日本美術刀剣保存協会の新刀剣博物館が両国に開館します。今後とも関係機関・諸団体と切磋琢磨しながら、充実した組合活動を続けてまいりたいと存じます。

全国刀剣商業協同組合のホームページも常に更新しています。ぜひご覧ください。

<http://www.zentosh.com/>

組合ホームページ

常務理事
服部 暁治

当組合は設立30周年を迎えますが、組合のホームページの開設は2005年ごろと記憶しますから、10年余りの歴史です。

組合交換会にパソコン会計システムを導入したときと同じように、立ち上げに紆余曲折がありました。時代の流れで、われわれもホームページを作らねばと認識してはいたのですが、協同組合の性^{さが}なのか、

なかなか進みませんでした。

刀剣商というアナログ思考の固まりみみたいな集団が、業務のデジタル化（今はIT化と言うらしい）を遂行しようとするのですから、どうしても時間とお金がかかります。

当時、組合にホームページの開設を早めてくれたのは、何と、全国刀剣商業協同組合の「なりすま

し」まがいのホームページが現れたことでした。皮肉なことに、それが組合のホームページの開設を後押ししてくれたのです。

銀行やカード会社のホームページに似せた巧妙な、なりすまし画面に比べたらはるかに稚拙でしたが、高額の刀の販売に利用しようとしているので看過できませんでした。

ホームページ作成の知識と経験のある組合員にすぐに依頼し、シンプルな画面でのスタートです。現在のようなさまざまなリンクボタンは、まだありませんでした。

そうしてやっと出来上がった組合ホームページですが、一般の人が直接アクセスしてくることはまづなかったでしょう。全刀商組合の存在自体を知らないのですから、当然です。アクセスしてくれるのは、新規に組合に加入申請しようという人ぐらいでしょうか。その場合でも、知り合いの組合員に聞いてホームページの存在を知るわけです

「大刀剣市」が組合主催の事業であるということは一般にかなり認知されたといっても、組合ホームページに直接アクセスするのではなく、多くの人は「大刀剣市」というキーワードでアクセスしてきます。そして、組合のホームページの中の「大刀剣市」のサイトにたどり着きます。いろいろの店舗を

のぞいているうちに、組合の趣旨、組合のあゆみ、刀剣界新聞、評価鑑定のページへとリンク誘導されていくのではないのでしょうか。

また、あるいは組合加盟の刀剣店にアクセスした人が、その画面に表示された組合へのリンクボタン発見してその存在を知り、何人かがボタンを押して（クリックと呼ぶらしい）組合のトップページから入ってくるようです。そうして組合の存在を知るわけですが、イメージ効果的な役割かと考えます。

組合ホームページは対外的なPRの役割だけでなく、対内的にも活用できるはずで。組合員同士の連絡や各店舗のリンク網の構築など、また事務局から全組合員への連絡用には郵便・電話・ファックスよりメールの方がスピード、モバイル性（相手がどこにいてもつながる）に優れ、かつ通信費用はゼロに近いメリットもあります。

携帯電話もインターネットも あっという間に老若男女に普及してしまいました。誰もがパソコン、スマホ、タブレットからネットにアクセスする現在、組合ホームページもイメージ効果的な役割から、積極的な活用で対外的にアピールしていくように始動しています。

これからも大いに活用していきたいものです。

私の現在、そして未来

佐藤 均

刀剣佐藤（岡山県倉敷市）代表者の佐藤均でございます。皆さまにはいつも大変お世話になっております。

さて、現在おかげさまで58歳になりましたが、最近「共有・共存」といったキーワードが本当に大切に感じられる年齢になったと思います。

刀剣の仕事を通して「買ってくださるお客さま」「売ってくださるお客さま」「流通の場面での同業の皆さま」「刀剣市場の存在」、そして会社のスタッフのみんな、すべての人に心の奥から感謝!!の日々を

いただいています。

刀剣美術館（刀剣佐藤本社）の設立、東京営業所の開設、刀剣鑑定書の発行事業（昨年秋から）、大阪刀剣取引所の新設（今春）と、念願の事業展開が整備されました。そして後継者の教育・指導にと精進しております。どうぞご指導・ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、全刀商のますますの発展と組合員の皆さま方のご健勝とご多幸を祈念して、私からのご挨拶とさせていただきます。（理事）

未来への贈り物

嶋田 伸夫

刀剣は日本文化を語るには不可欠なもので、古美術を代表する1つですが、一般に目にすることや話題に上る機会が少ないために、私たちが思うほど社会の中で意識されてはいないのが実情です。

そのような昨今、他の業種や一般社会に組合の存在を誇示し、また刀剣の普及などにも大いに役立っているのが、組合最大の事業である「大刀剣市」ではないかと思えます。

開催日が近づくと毎年、大々的に新聞などの媒体を通して、開催の予告を数十回掲載しています。わずかな予算でありながら、予算以上の最大限の告知を行っています。

新聞に刀剣の文字が大きく表示され、日本刀や太刀拵の写真が他業種のどの広告写真よりも目立って掲載されると、見た人はなぜ日本刀が出ているのか見出しに目が行くことでしょう。またインターネットを利用し、組合のホームページにて一年中、大刀剣市の情報が発信されています。

大刀剣市に新聞社やテレビ局などが進んで取材に来てくれるよう、今後は話題性や企画を考えていかなければなりません。

全国の美術館や博物館で行われる特別展でも、刀

剣を軸とした展示は決して多くはありません。

そのような中で、刀剣博物館が来年の10月に現在の渋谷区代々木から墨田区の旧安田庭園へ移転し、開館する予定です。両国駅から徒歩数分と便利であるばかりか、江戸東京博物館・両国国技館と並ぶ立地の良さであり、刀剣鑑賞後は大名庭園を散策することもできます。

これは刀剣界の慶事であり、地の利を生かして今後は一般の市民に親しまれ、マスコミの取材を連日受けるような、日本刀と身近のものをコラボした、特別展も期待したいものです。

刀剣は男子の嗜好と思いきや、女性が歴史や刀剣の世界に進出してきた「刀剣女子」なるブームも大変喜ばしいことです。ブームは一過性のものとしても、やがては母親と子どもが博物館を訪れ、日本刀を前に母親が歴史の話をする日が来るのではないかと期待します。刀・刀剣・日本刀という単語に違和感を感じない、日本の精神文化を引き継ぐ子どもたちが1人でも多く未来に現れることを願います。

開館予定の新刀剣博物館は、昭和の愛刀家から未来の愛刀家への贈り物となるように、刀剣界が一丸となり協力していきたいと思えます。（理事）

全刀商と私

生野 正

私が当組合の理事に初めて任命されたのが3年前の5月17日、早いものであつと言う間に3年という月日が経ちました。

理事になる前のころを思い出しますと、毎月定例の市場に朝来て仕入れをして帰る、秋になると「大刀剣市」があつて忙しいな～、なんていう感覚で、組合の役員の方々のご苦勞なんて知る由もなく、漫然と組合員なんだと思つて何も考えることはありませんでした。

理事にさせていただいてからは、いろいろな方向から組合を見つめて考えることができるようになりました。ここが以前の私と現在の自分が変わった大きな点です。

組合が運営されていくには、まず財源確保が重要です。皆さまもご承知の通り、近年交換会での売り上げ金額は減少しています。これは憂慮しなければならない事態です。現在の組合員数、市場に出席される組合員の割合と、出品される品物の数、これにより組合の収入となる歩金がいくらになるのか、市場経費と組合運営費を考えたときに無理がない数字を出すことができるのか、毎月考えるようになりました。

せっかく先輩方につくっていただいた組合です。万一、この組合の存続が危ぶまれることがあるならば、私たちの業界の信用も失墜してしまうことは間違いないことです。美術商の中で唯一、刀剣商と位置づけられた組合を運営しているわれわれにとって大きな損失となります。

ですから、何が何でも組合を守つて成長させていかなければならないわけです。都内近辺にお住まいの組合員の方は毎月でも、遠方からお越しになられる方には大変ご苦勞なこととは思いますが、2カ月に1度、3カ月に1度でもいいのです。組合交換会に出席されて、売り買いにも参加されることを、切に願うものです。

5月の総会のときには多くの組合員のご出席を賜り、出来高も高くなり、まずまずでした。しかし、1年を見通して気になる時期があります。正月ということで1月、夏休みということで8月、大刀剣市の後ということで11月、品も少なからう、出席も少なからう、と想像して出席しないのでは駄目だと私

は思います。ぜひとも組合員全員が一致団結し、今後の財務内容改善に尽力いただければと思います。

さて、私たち組合の『刀剣界』新聞は理事長が率いる編集部隊の努力により5年間、次号で記念すべき第30号を発刊することになります。当初から思うと、購読者数もぐっと増えており、今では刀剣ファンのみならず、各界の個人・団体に配布され、確たる地位を占める刀剣界情報紙になっています。

私事ですが、初刊のころの私は、社会人になって新聞の記事を書くなんて初めての経験でしたから、記事の割り当てが決まる度に悩みの日々が続いたのを思い出します。何を書こうか、こんなこと当たり前でしょ、面白くないし、こんなこと書いちゃいけないし、いろいろ考えて悩んでいました。でも、こういう悩みは私だけじゃなかったはずで、編集委員の皆が同じだったに違いないと思っています。

夜に記事を書いていて眠ってしまい、朝起きて見直してみたら、何だこの文章はと思つて書き直したり、さらに3日後に読み直すと、気が変わっていたりして、初めから書き直しなんていうこともありました。

しかし、慣れて実際にあるもので、最近では自分が思うことを正直に伝えればいいのだ、なんて自分に言い聞かせるようになり、以前のように悩むことは少なくなりました。新聞を通じて組合の輪が広がって親密になります。『刀剣界』が組合の誇る財産になったこと、これも組合員みんなの自慢ですね。

あと1つ、今期の総会で、「刀剣評価鑑定士」を組合員全員が合格を目指して始めることが決議されました。この資格は民間団体が行う資格検定制度とは異なり、内閣総理大臣認可組合である私たちの全国刀剣商業協同組合が主催する資格検定事業なのです。ですから資格を持つ者は、これを有効利用することができるわけです。履歴書を書くときも威張つて「全国刀剣商業組合認定、刀剣評価鑑定士」と記載することができるのです。私たち刀剣商業に携わる者にとって、力強いライセンスになることは間違いありません。

組合員全員が有資格者となり、さらに刀剣に興味がある一般の方々に向けて検定募集を行うことも可能になります。ゆくゆくは全国刀剣商業協同組合の

柱になる重要な事業なのです。

私に残された理事の任期は来年の5月までです。

やるだけやって、組合のために働かせていただく所

存です。

(理事)

後に続く若人へ

瀬下 明

全刀商の一員として日々過ごしておりますが、若い時代は一員としての自覚はなく、ただただ諸先輩の背中を夢中で追いかけて、刀剣商としての道を歩んでいくのに必死でした。業界全体のことや全刀商のことを考える余裕など、全くと言っていいほどありませんでした。

気持ちに少し余裕ができた昨今、いろいろな面で業界の抱える問題点や改善点などが見えてきたよう

に思います。

内部的にはまだ良いと思いますが、一般社会の常識から見て、業界の常識が非常識にならぬよう、今後われわれの時代に問題点を一つ一つ改善・解決していくべきだと考えます。

後に続く若い人たちが活躍できる道筋を作り、バトタッチしてこそ、全刀商の明るい未来が開けるものだと確信しています。

(理事)

変化の中の人材育成

松本 義行

22年間の金融サービス業勤めから刀剣商に転身して6年が経つ。素晴らしい同業の先輩方に恵まれ、精いっぱい商売に打ち込むことができた。市場での作法、物の見方や売買における考え方など、刀剣商のイロハを指導してくれた先輩方に感謝している。

刀剣商に教育指導係やマニュアルなどは存在しない。しかし、刀剣商の良識が保たれるよう、若手の教育を自発的に行う先輩方がいてくれる。そのおかげで秩序ある現在の市場が営まれている。

また、刀剣商には組織された組合がある。組合は刀剣商の相互扶助、社会的地位の向上を目指して活動している。毎月の組合交換会や毎年開催される大刀剣市、そして創刊より5年を迎える隔月発行『刀剣界』が主たる活動である。そこで若手も含め多くの刀剣商が汗を流し、組合の活動を支えている。そして、そこに新たなメンバーが加わりながら、ノウハウが受け継がれている。

こうして健全な刀剣商社会が維持されているので

あろう。

そんな中、時代の変化として、インターネットでのオークション方式による刀剣・刀装具の販売マーケットが急拡大している。店を構え、在庫を揃える従来型とは違うこの新しいビジネスに、新規参入が数多く現れている。コンピューターや画像処理を巧みにこなす彼らは、おおむね私より年下世代である。

私も含めて親の基盤があれば、市場への加入はそれほど困難を伴わない。しかし縁故を持たずに新規参入する場合は、市場への参加は現状ハードルが高く、容易ではないと思われる。

市場で先輩たちから刀剣商としての礼儀作法や鑑定評価の知識を学ぶ機会が多いのだから、新人刀剣商を各市場が積極的に受け入れる姿勢を示してはどうだろうか。組合でも彼らにどう対処するのか、組合員に取り込むのかどうか、組合員加入の基準や方法は現状でよいのか……、状況を認識して検討すべき時期かと思う。

(理事)

刀剣界奇譚

綱取 譲一

「死んだ、飛んだ」と猿田副理事長の言葉を書いたのは昨年この『全刀商』。今はいない、かつて

の先輩たち、友人たちとの談話の中に、将来に残しておきたい一節を私は記憶に留めている。と言っ

ても、商売上の哲学や説教の類ではない。皆さんにとっての「ためになる話」は私の場合は3歩歩いたら忘れる。その半面、私の耳を捉えて離さなかったのは奇譚の類だ。触りだけだとこうなる。

若き刀剣商Y氏が慕う老舗刀剣店の番頭のS氏は、連日の徹夜マージャンと不摂生がたたりに、ある日脳卒中で倒れる。開頭手術を受けているはずのその日。Y氏が交換会会場の片隅で見たのはS氏の悲しげにたたずむ姿だった……。

Y氏もS氏も、既にわが業界からは残念ながら姿を消している。一方で健全現役最年長組の一人、横島忠弘組合員からは血も凍る話を聞いている。

見知らぬ街で車の進路を失った氏は、とある寺院の境内を利用してUターンを試みた。本堂への階段に人影を見つけウインドーを下げたその瞬間、髪が逆立ちルーフに付くのを感じるほどの恐怖と後悔の念に駆られる。車に近づいてくる歩幅と速度が全く合っていない白装束のこの世ならぬ者が、固まる氏の耳元で囁いた言葉とは……。

実話であろうが、フィクションであろうがホラーはセンスだ、というのが私の持論だ。私には小説は書けないが、どうだろう。あの新刊本の帯や、角川ホラー文庫のカバーの背のコピーくらいならイケないだろうか。

深海理事長率いる現体制で発刊され、軽快な疾走を続ける『刀剣界』。そこには理事長の陣頭指揮、記事の「風向計」、そして土子編集長の手腕が欠かせない。その『刀剣界』に各組合員たちが奇譚を発表する日が来てはまずかろう。それは横島組合員の体験が恐ろしすぎるのと、ポテンシャルある若手の「ためになる」文章が控えているからだ。

「聞き書き」と言うアンソロジーを意味する単語に覚えがないだろうか。『全刀商』の黎明期に執筆していた故吉川栄次氏の「古老聞き書き」だ。しかしあの文面は真似できるものではない。

もしもだが……誰か業界の奇譚をあのようにまとめてくれないだろうか。そうならば私は、帯のコピーだけを受け持つのだが……。(理事)

刀剣商「昨日・今日・明日」

持田 具宏

番頭時代も含めると、小生が刀剣商として業界に関わらせていただいている年月は4半世紀、25年を超えている。

16年前、杉江美術店の杉江雄治様より独立させていただき、「営業」なるものを始めたのはいいけれど、あまりお金にはならず、情けないことに40歳過ぎにして、母親によく「おこづかい」をもらい、妻には居酒屋に行くと、おごってもらっていました。

そんな期間が2～3年、ようやく「営業」で稼げるようになり、「おこづかい」はもらわず、妻と居酒屋に行っても割り勘になりました。

そのころ、銀座刀剣倶楽部が始まりました。小生もスタッフとしてお手伝いしようと思っていたところ、思いがけず「通し」という役目を仰せつかりました。誰が誰にいくらで何を売ったか、ということをおおきな声で伝票を書いている人に伝える仕事です。初めてのことでしたので、わからないながらも一所懸命に務めました。初めのころはなかなか慣れず、不手際も多かったと思いますが、だんだんと慣れてきて、何とか役目を果たせるようになりました。

また、途中、脳出血で入院してしまい、2カ月ほど休んでしまいました。その後も病気のせいもあって、数々の不手際を起こしています。こんな情けない小生を黙って使ってくれた深海さんには、本当に感謝しています。また、清水さんをはじめとする銀座刀剣倶楽部のスタッフにも感謝しています。

そんな小生に、ここ数年は、お客さまからの買い取りが新たな仕事として入ってきました。かねてよりの友人だった道具屋が、「鑑定会」なるものを全国的に始めたので、「刀・刀装具」部門は頼むとのことでした。

実際にやってみると、こんなときに「通し」の仕事が役に立ちました。高価なお品物から低額なものまで、大体の値段が、なぜかわかるのです。十数年の「通し」の経験が、こんなところで役に立つとは思っていませんでした。ありがたいことです。

人間は結局、将来どんな展開になるか、なんていうことはわからないんですから、今できる仕事を一所懸命やるしかないんでしょうね。(理事)

日刀保と当組合とが意見交換

公益財団法人日本美術刀剣保存協会（小野裕会長、以下「日刀保」）と、当組合との会談が去る6月26日に持たれました。

日刀保から小野会長・柴原勤専務理事・志塚徳行常務理事が出席され、組合からは深海理事長・飯田前理事長・清水専務理事・伊波常務理事と筆者が出席しました。

小野会長より深海理事長に対して、5月に行われた組合の第28回通常総会において理事長に選任され、3期目を迎えたことへのお祝いの言葉をいただきました。

日刀保においても、6月2日任期満了による役員改選が行われ、小野会長があらためて会長に就任されましたので、深海理事長より祝辞を述べさせていただきました。

小野会長は、運営責任者の立場で、深海理事長は組合の牽引者として、平成23年に時を同じくして代表に選出されていることから、業界の発展を誰よりも強く切望しており、相互に共通するものがあるようです。

また、会長就任後、直ちに新公益財団法人の認可に向けて動き出し、認可後は多くの案件を、現執行部の強い協力の下に次々と実行してきました。

その後、墨田区の旧安田庭園・両国公会堂跡地に刀剣博物館を移設するという大事業に取りかかり、現在は基本協定を締結し終え、平成28年3月着工、29年春完成予定で進んでいます。

「日刀保の移転は刀剣業界全体の慶事であり、新刀剣博物館の開館後は日刀保にとどまらず、業界各団体の新たな活動と情報を相互に生かして行けるような場所にしていく考えていますので、この度の移転を業界全体で祝っていただきたい。今回は新博物館の建設を前に、今まで以上に業界にどれだけ貢献できるか、業界の未来を見すえて取り組みたい」と、会長の力強い発言がありました。

日刀保の重要な業務である刀剣・刀装具類の審査は、いつの時代も水準を維持しながら厳格な審査が求められています。今後、学芸員の定年退職などに伴って鑑定力の低下があってはならないとする話となりました。組合や関係機関の意見を取り入れて、そのような案件にも機敏に対処していきたいとのことでした。

「刀剣女子」などの新語まで生まれるブームが起こり、刀剣関連の書籍も盛んに出版されていますが、刀剣業界がこのブームを牽引してきたわけではありませんから、今のところ、業界にさほどの好影響はありません。しかし、これから業界を支えていく若い人材に、業界主導で新たな発展の道を残していけないものかとは誰もが考えるところです。

例えば、自分好みの刀剣をオーダーして現代刀匠に製作してもらい、それを友達同士で鑑賞し合うような刀剣新人類が現れてもらいたいものです。そこで、新刀剣博物館に常設の鍛錬場を設け、定期的に鍛錬を公開すれば、日本刀の存在をさらに確かなものにしていけるのではないかと話題になりました。

柴原専務より、「墨田区の条例で、庭園内には火気類の使用が一切禁じられており、現在も希望は抱いているが、実現は難しい」と説明がありました。1階に開設予定のカフェハウスでも、すべて電気による調理器材を使用するようです。しかし、いずれは博物館において公開鍛錬が可能となるよう、日刀保の現執行部の交渉力に期待します。

社会と刀剣との距離が必ずしも近いとは言えない現状で、組合は常々刀剣商の社会的地位向上を目指して課題に取り組んでいます。「押し買い」などの強引な買い入れが横行している現在、売り主が安心して売却先を選べる基準が強く求められています。深海理事長の発案である純正な鑑定システムがまさにそれであり、刀剣の鑑定と美術的価値を的確に判断できる組合員を対象とする検定制度を提案しました。

ただし、これを組合のみの尺度で認めるだけでは、検定基準への信頼性が不十分なため、日刀保の意見を伺い、合意が得られれば、両団体の共催する検定制度としてはいかがかと申し上げました。

現在の日刀保には、新刀剣博物館の移設を前にして、「和」の精神を尊び、かつ実行してゆく姿勢に並々ならぬものがあります。数次にわたる組合との会談が「有言実行」をも物語っています。

日刀保と組合とがそれぞれに持ち得る情報と意見の交換を定期的に行い、今後の業界の発展に生かしていくことを相互に確認し合い、この度の会談も有意義に終わりました。（嶋田伸夫）

「大刀剣市2015」事前説明会開く

「大刀剣市2015」は、秋深まる11月20日(金)～22日(日)の3日間、新橋の東京美術倶楽部で開催されます。

その第1回は「全刀商オークション」と称してオークション形式で開催しました。あれから数えて28回を迎えます。

そもそも当組合が大刀剣市を開催する意義は、

- ①組合員の経済活動を促進し、組合員および業界の経済的・社会的地位の向上を図るとともに、顧客に対応するサービスの向上に努める
 - ②一般の刀剣・刀装具および甲冑・武具などに対する関心を高め、美術品としての保存が図られるよう、それが心ない人たちに決して使用されないよう啓蒙活動を行う
 - ③新たな愛好者を開拓する
 - ④社会貢献をする
- 等々であります。

過去十数年の開催では、初日に関係諸団体をお招きしてオープニング・セレモニーを行ってきました。そして、主催者・出店者の全体顔合わせと留意事項の伝達は、オープン前20分程度の朝礼で行っていましたが、前回からは大刀剣市事前説明会として開くようになりました。

事前説明会の趣旨としては、まず組合のビッグイベントを成功させるべく出店者72店舗が一堂に会し、一致団結を期すること。さらにご来場者に満足していただける環境づくりや、昨今の刀剣ブームに伴う入場者数の大幅増加があっても事故やトラブルなどを生じさせないことなど。そのためにも綿密な打ち合わせをする必要があるからです。

今回は10月23日の組合交換会終了後、説明会を開催しました。初めに小生が出欠の点検を行い、72店中65店が出席されていることを確認して本題に入りました。

冒頭、深海理事長が挨拶し、「大刀剣市は組合の相互扶助活動の1つで、国内外の愛好家の要望に応えるとともに、われわれの取り扱う刀剣などへの一般の理解を深めていただく年に1度のビッグイベントです。実行委員会の各委員は手弁当で、7月中旬から商品集荷や写真撮影、カタログ制作、会場設

計、広報・広告などの準備を進めています。本日の説明会への出席は出店条件の1つになっています。各担当からの報告やお願いについてご理解いただき、大刀剣市をぜひ成功に導いていただきたい」と述べられました。

次に冥賀副理事長からは、搬入・搬出に対する注意事項や展示スペースの節度ある展示の仕方などの説明がなされました。嶋田理事は出店ブースに関する件や、3階重文室での特別企画「吉田松陰の時代の刀」展や4階会場の銘切り実演などイベント関係について説明されました。

佐藤理事からは大刀剣市ホームページの進捗状況の報告がなされ、伊波常務理事からは今までの広報・広告の報告があり、広告等が出席者に閲覧されました。



ほとんどの出店者が集まった大刀剣市事前説明会

カタログ制作については生野理事より、出品商品解説の英訳文については松本理事より説明がなされました。持田理事からは、盗難保険が損保会社の都合で廃止になってしまったことに伴い、セキュリティを強化する旨の説明がありました。服部常務理事からは、クレジットとローンの取り扱いについての説明がなされました。

質疑応答に移り、陳列商品を美術倶楽部に送る際の方法や、クレジットカードの取り扱い方などについて、出店者から活発な質問がありました。

約1時間ではありましたが、内容の充実した事前説明会となり、出店者それぞれが大刀剣市を成功させる決意を胸に誓い、また商売繁盛を祈念して終了となりました。(大刀剣市実行委員長・清水儀孝)

第28回「大刀剣市」開催される 72店舗が出店、連日賑わう



開場前から東京美術倶楽部に詰めかけたお客さま

都会の木々が紅葉最盛期を迎えた11月20日(金)～22日(日)の3日間、美術の殿堂、新橋の東京美術倶楽部で全国刀剣商業協同組合主催の第28回「大刀剣市」を開催しました。

今回は昨年より約3週間遅い開催となりましたが、ご来場者数は初日970名、2日目965名、最終日912名と、ほぼ昨年同様の水準を記録しました。

カタログは前回を上回る部数を制作しましたが、おかげさまで完売になりました。

初日はたまたま同会場のイベントと重なってしまい、ご来場の方々にご不便をおかけしてしまいました。

受付は例年と同じく4階エレベーターホールに設置し、同フロア会場には29店舗が、3階会場に43店舗が色とりどりにブースを構え、お客さまをお迎えました。

わが全国刀剣商業協同組合の最大のイベントである恒例の大刀剣市は、6月中ごろに実行委員会を立ち上げ、カタログ制作のための商品集荷・撮影・編集などの作業を各委員が分担し、並行して会場設計や広報などさまざまな準備を重ね、出店条件でもある事前説明会(10月23日)を経て開催に至りました。

事前に、公益財団法人日本美術刀剣保存協会発行の『刀剣美術』や、産経新聞、フジサンケイ ビジネスアイ、読売新聞、日刊スポーツ、報知新聞その

他のメディアに広告を発信するとともに、産経新聞の読者10名様への大刀剣市カタログ付入場券プレゼントを企画したところ345名の応募があり、読売新聞においては24名様のごプレゼントに対して282名(女性69名)からの応募がありました。このような大きな反響からは、刀剣ブームの予兆を感じ取ることもできます。

北は北海道から南は熊本までの、それぞれの店舗ではお客さまとの和やかなやりとりが続く中、関心を集める展示やイベントも繰り広げられました。

3階重文室においてはNHK大河ドラマにちなんで「吉田松陰の時代

の刀」と題し、江戸時代末期の名刀を展示して、ご来場者の注目を集めました。また4階の全日本刀匠会のブースでは、銘切り実演が行われ、個性あふれる現代刀匠の作品をアピールしていました。同じく4階では、恒例の「我が家のお宝鑑定会」が開催され、多くの方の依頼に応じて、鑑定員がその評価や見どころを丁寧に説明していました。

なお、3階に特設した組合コーナーでは「一般社団法人日本甲冑武器研究保存会」「学研」「目の眼」の協賛があり、カレンダーや書籍などが販売され、イベントに花を添えていました。

ほとんどの出店者の出席の下で事前説明会を実現したかいあって、初日の朝礼は10分程度で済み、事故や盗難などもなく終えることができました。

第1回目から毎回のご後援をいただいていた産経新聞社・フジサンケイ ビジネスアイ両社には感謝に堪えません。また、開催にご尽力いただいた各機関、関係者の皆さまには厚く御礼申し上げます。実行委員、出店者、その他関係者の皆さま、ご苦労さまでした。

来年の大刀剣市は11月18日(金)～20日(日)の3日間を予定しています。出店者はじめ組合員の皆さまには、今まで以上により良い大刀剣市となるよう、ご努力をよろしく願います。ご意見やご希望がありましたら、全国刀剣商業協同組合事務局までお寄せください。(「大刀剣市」実行委員長・清水儀孝)

「大刀剣市」の歴史を刻むカタログとその制作プロセス

平成27年度の「大刀剣市」カタログは4,200部印刷された。大刀剣市の最終日22日の午前中に売り切れたと事務局より聞き、予想をはるかに上回る入場者にうれしさを感じた。

ところで、当組合で制作したカタログの歴史は古く、大刀剣市の前身である「全刀商オークション」昭和63年や「刀剣フェスティバル'89」に始まり、平成元年から現在まで続けられている。

今やカタログは単なる売品目録ではなく、大刀剣市の顔であり、全刀商の歴史を物語る代表的な出版物の一部となっている。全世界の愛刀家が、大刀剣市の開催とともに待ち焦がれる存在にまで成長したと言っても過言ではない。

それには、制作に当たって毎年改良を積み重ね、進化させてきた関係者の努力があることを忘れてはいけなだろう。

例を挙げてみると、

- ①掲載品は保存以上の鑑定書が付いていることを条件とした。これは、掲載品の中にたった1点でも疑わしいものがあれば、カタログ全体の信用問題に発展し、ひいては全刀商自体にも大きな影響を及ぼしかねないからだ。
- ②英訳版の作成とホームページでの公開。ここ数年、米国・欧州各国はもとより、世界中からお客さまがお見えになる。その方たちの声に応じて英訳版を作成し、非常に喜ばれている。これには語学に堪能な松本理事にご尽力いただいている。
- ③巻末に前年の大刀剣市の模様を数ページ、写真で紹介している。これは後々、大刀剣市の歴史の語り部となるであろう。



歴年の大刀剣市カタログは組合の歴史をも物語っている

④掲載品は刀剣のみでなく、刀装具類・甲冑類など、保存から重要美術品まで幅広く受け付ける。

⑤掲載品には店舗のブースナンバーを付け、来場者が探しやすいようにした。

⑥出店者名簿の中にホームページや携帯電話番号も加え、問い合わせに便利にした。

等々、さまざまな工夫を取り入れている。引き続きより良いカタログを目指しているので、出店者はもちろん、一般の方々もご助言をぜひ組合事務局までお寄せください。

ところで、どのようなプロセスで大刀剣市のカタログが制作されているか、あまり語られたことがない。そこで今回は振り返り、ご紹介させていただく。

まず編集委員は、深海理事長より委嘱状を受け、活動を始める。

掲載品の集荷が最初の仕事である。7月17日組合交換会会場、同24日名刀会会場、8月1日銀座刀剣倶楽部会場で行われた。清水専務理事・嶋田理事を主軸に、生野理事、大平将広・服部一隆・冥賀亮典の各氏が奮闘した。

集荷は最も神経を使う仕事である。掲載品は各店舗の目玉商品であり、扱いは丁寧かつ慎重に行わなければならない。

刀剣の場合、登録証・鑑定書のコピー、撮影箇所・返却日などを確認し、必要事項はすべて台帳に記入し、さらに荷札に書き込んで仕分けする。その際、刀身の保存状態も見極めるが、ヒケ1本たりとも見落とすことは許されない。

拵・刀装具とも同様である。持参されたものを単に受け取るだけでなく、大切にお預かりして、おのおの撮影場所に届ける重要な仕事だ。

さらに、それぞれの撮影現場で立ち会わなければならない。なぜなら、カメラマンは商品の取り扱いができず、加えて撮影箇所などの判断もできないからだ。鐔の表裏や目貫の上下・左右を間違えたら大問題である。立会人は商品の管理と撮影の指示を的確に行わなくてはならない。また、商品の特徴もよく把握しておく必要がある。後述する校正の際に重要なのだ。

撮影は刀装具類が7月21日・27日、8月3日の計3回、甲冑類は8月4日に各2名ずつが立ち会って行った。清水専務理事・嶋田理事のほか、持田・生

野・松本各理事と大平氏が担当された。

撮影作業がすべて終了すると、いよいよ編集に取りかかる。第1回の会議は8月11日、組合事務所にて行われた。これには委員のほか、同美印刷から2名が加わった。

最初に、表紙を何にするか協議した。すべての出品の中から候補を何点か絞って全員で検討し、出品者にも確認して、今回は甲冑に決定した。

その後、掲載順の割り振りとなる。毎年、店舗を3つのブロックに分け、公平に順番を付けるよう心がけている。店舗によって掲載が1～5ページと異なるため、それぞれがなるべく見やすくなるよう、見開き起こしにしたり、1ページ同士を組み合わせたりと配慮する。この作業は、ベテランの持田理事がリーダーシップを取り、的確に進めていく。

次に商品解説や出店者名簿は、申込用紙を照合しながら進める。そのほか、案内状やチケットの原稿作成も同時に行われた。

第2回目は9月4日、同美印刷の会議室で行われた。カタログの初校である。メンバーそれぞれが一通り目を通した後、図版ページと商品解説ページに担当を割り当て、元原との読み合わせを行う。

この作業には、ベテラン勢が力を発揮する。甲冑類は網取理事、刀剣類は服部常務理事に持田理事、刀装具類は何と言っても齋藤隆久さんだ。誰も気がつかないような微妙な箇所は、服部常務理事・嶋田理事が本当によく見つけてくれる。そんな初校は意外に時間を要し、6時間にも及ぶ。頭がフラフラになるほど、神経を使う。

第3回編集会議は9月11日、第4回は同24日、同美印刷で行われた。再校では、初校で修正した箇所の確認、そして再度の校正・読み合わせだが、またまた訂正すべき箇所が見つかる。多くの目で、あれだけ慎重に校正したというのに……。

色校は、鐔や拵、甲冑類が現物に近い色彩で再現されているかの確認だ。かつてはポジフィルムと校正紙を突き合わせて、アカが強いか、アイを抑えてとかやっていたが、デジタル化された今、撮影に立ち会った人たちの記憶が最高の物差しだとは、当然と言えば当然だが、意外な発見だった。

その後、色校の再度の確認を経て、集荷から3カ月後の10月下旬、カタログはようやく完成を見た。最初に手にしたとき、喜びと、どこかにミスはないだろうかとの不安はいつも半々だ。

毎年繰り返している編集会議は、メンバーにとって今では夏の風物詩であり、楽しい思い出も数々残っている。

近年では若手の台頭が著しく、服部君・大平君の活躍もうれしい。生野・松本両理事も板に付いてきた。編集委員は無給の勤労奉仕であるが、刀剣や刀装具そのもの以外にも写真撮影や図録制作のノウハウなど、勉強になることが山ほどある。委員になって手伝いたいという方は大歓迎である。

今回の編集委員は下記の通り。

大平将広・齋藤隆久・嶋田伸夫・清水儀孝・生野正・土子民夫・網取譲一・服部暁治・服部一隆・松本義行・冥賀吉也・冥賀亮典・持田具宏

(冥賀吉也)

「わが家のお宝鑑定会」を担当して

「大刀剣市」恒例のイベントである「わが家のお宝鑑定会」は、今年も会期中3日間にわたり行われました。

大林幹夫氏、中村榮次氏と私赤荻が担当し、事務局のサポートを受けて運営しました。

鑑定に関しては深海理事長以下、理事全員が交代で担当するという役割分担で行いました。このシステムが定着したので、私たち担当者も今年はずべてに落ち着いて対応できたと思っています。

今回のお宝鑑定で感じたのは、受付件数が少なかったことです。データを見ると、一昨年115件、昨年99件に対して、今年は72件でした。

参加者に対して「お宝鑑定を何で知りましたか？」との問いには、昨年同様新聞がトップで、次が刀剣店の紹介、次いで知人の紹介とインターネットが同数でした。ちなみに、毎回来る方と前回も来た方が計34人いました。

今回は幸いにも“ひやかし”的な人は見かけませんでした。外国人が何組か訪れ、主に刀装具類について熱心に説明を聞いている光景が目につきました。

売却したいと登録証のみを持参された方や、所蔵品の写真だけを持ってこられた方もいました。確かにご婦人や高齢の方にとっては、何本もの刀剣を持参するのは大変なことだと思います。

ほかにも、ご主人が亡くなられ、処分したいがどうしたらいいかとか、またそれに類する相談が数件ありました。刀剣類の取り扱いや処分は、想像以上に大変なことかもしれません。

全国刀剣商業協同組合としてもその種の要望に応えるべく、もう少し前向きに手を差し伸べ、お手伝

いをさせていただくという意思表示をしてもいいのではないかと思います。

いずれにしても、今年も無事に終わり、ホッとしています。ご協力ありがとうございました。

(赤荻 稔)

「大刀剣市」会場の設計と設営について

回を重ね「大刀剣市」もこの度28回となり、多くの愛刀家や刀剣業界すべてに定着した当組合の一大事業となってまいりました。

会場は東京美術倶楽部の3階と4階を借り受け、当組合が委託しております東京貸物社にガラスケースやパーテーションなどを準備してもらい、設営します。これには2日間を要します。翌日、出店する組合員がおのおの商品の搬入と飾り付けを行い、その次の日からの3日間が大刀剣市です。

通常は大刀剣市終了の翌日、再び東京貸物社が後片付けを行いますので、会場は合計7日間使用することになります。

しかし今回は、大刀剣市の翌日から同会場にて別の催事が行われたため、東京貸物社には撤収と次の催しの設営を徹夜でお願いすることになってしまいました。また、3階の出店者の方々には2時間での後片付けをお願いしました。ご協力ありがとうございました。

美術倶楽部は年間を通していろいろな美術団体が利用しているため、2フロアを7日間通して確保するには、早期に予約をしておかなければなりません。組合執行部で協議し、開催日の1年半から2年前に決定することになります。

今年の第29回大刀剣市は、11月18日(金)~20日(日)の3日間開催します。

現在は70店舗以上が3階と4階に分かれて出店していることもあって、さまざまなご要望やご意見をいただいております。

会場が分かれずに1フロアで、希望する広さの販売スペースを確保するには、現在の会場ではかきません。今後、若い世代の愛刀家をいかに育成していくかという課題と併せ、検討していくべきテーマです。

ここ数年、出店数の増減があまりなかったため、会場の店舗ブースを新たに設計・変更するの必要がありませんでした。これも出店数の変化と会場次第で、大きく変わる余地が出てきそうです。

以前はブース移動を希望する要望が少なくなく、実行委員会として、できる限りの調整をさせていただいておりましたが、希望する場所に相手出店者がいるために、要望に応えられないこともあります。数年前からは、毎年同じブースを使用している方に優先権があるよう、実行委員会で規約に追加させていただきました。

また、照明についても、熱を持たないLEDの導入を検討してきました。機材などのレンタル料金が安くないので、従来通り据え置いてきましたが、来年からは導入を考えています。

なお、ご承知のように人件費や資材費などが値上がりしており、大刀剣市の収支も厳しくなっていますが、今年の出店料は据え置きとさせていただきました。

それを可能としたのは、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事らが各業者と誠心誠意交渉された結果です。開催に協力していただいた業者の中には、大刀剣市や当組合との長い関わりを重視して、ほとんど利益を見ないところも現実にあります。

しかし、これ以上の経費削減は難しく、諸条件の変化は予断を許さないところです。次回開催の折は、やむなく出店料金の見直しを必要とするかもしれません。

大刀剣市はクオリティーの高い、世界最高峰の刀剣即売会です。このようなノウハウと信用を積み重ね、育ててこられた先輩方に感謝いたします。

(嶋田伸夫)

大刀剣市フォトギャラリー



受付は大わらわ



初日の朝礼に参集した出店者



すっかりおなじみとなった「我が家のお宝鑑定会」



名刀が堪能できた「吉田松陰の時代の刀」展



現代刀匠の銘切り実演に興味津々



カタログも好評で完売した。受付にて



お客さまで賑わう休憩所とお弁当コーナー



抽選に当選したお客さま

撮影／トム岸田・冥賀明子

シンポジウム「文化省創設への道筋」を開催 期待される全美連の組織力向上



文化省創設について論議された文化芸術推進フォーラムのシンポジウム

昨年11月12日、東京美術倶楽部において、文化芸術推進フォーラムのシンポジウム「文化省創設への道筋」が文化芸術振興議員連盟主催により開催されました。

この刀剣界紙上でもたびたび紹介された同フォーラムのシンポジウムは、昨年のタイトル「文化省の創設を考える」から「…創設への道筋」へと変わり、その実現へ一歩近づいたことを物語っています。

別掲の進行表の通り登壇があり、それぞれの演者から、わが国の優れた文化芸術を国民生活向上や社会経済発展の重要要素とし、国の活力を生み出し、文化交流を通じて世界平和に貢献していくための、さまざまな課題が取り上げられました。また、先進国の間で水をあけられている文化政策ですが、人員・予算面でも、芸能、芸術、映画、音楽、文化産業、知的財産保護、観光など多方面の拡充策が指摘され、現在の文化庁を「省」に格上げする必要性が確認されました。

主催者挨拶…野村 萬 (能楽師)
 進行…浮島智子 (公明党)
 講演…遠藤利明 (東京オリンピック・パラリンピック担当大臣、自民党)
 問題提起…伊藤信太郎 (自民党)
 パネリスト…逢沢一郎 (自民党)
 枝野幸男 (民主党)
 高木美智代 (公明党)
 松野頼久 (維新の党)
 市田忠義 (共産党)
 まとめ…河村建夫 (議員連盟会長、自民党)

このフォーラムの美術商分野は、全国美術商連合会 (全美連・浅木正勝会長) が担っています。株式会社東京美術倶楽部の現会長でもある浅木氏は、各方面に幅広く接触し、業界の社会的信頼を高め発展を図るとともに、わが国の文化芸術振興に寄与



挨拶する全美連・浅木会長

すべく、活動を積極的に続けています。

そして、全国刀剣商業協同組合の深海信彦理事長は、全美連に理事として参加。全国5都 (東京・大阪・京都・名古屋・金沢・富山) 美術商協同組合をはじめ、洋画・現代版画・浮世絵・現代美術など各方面の代表と席を並べています。

以前、当組合より全美連の組織力・発言力を強めるために加入のご案内をしたのも、この組織活動に協力する一環です。刀剣業界からは特に多くの組合員とその従業員の入会に結びつき、感謝の声が聞かれています。

文化省への格上げによる文化政策の向上や、業界が直面する諸問題の解決と円滑な経済活動のためにも、社会的信頼を築きながら地位と組織力の向上が必要となるのではないのでしょうか。 (伊波賢一)

登録証問題を考える

銃砲刀剣類登録証は昭和25年に施行された銃砲刀剣類所持等取締令に基づき、翌年の登録審査から発行されているものです。

組合では制度の趣旨に鑑み、譲与や相続に伴う所有者名義の変更の必要性を広く呼びかけてきました。その結果、従来はなおざりにされがちだった名義変更が、今日では当然のこととして履行されるようになりました。

反面、このことに伴う問題も散見されています。自己の責任ではないにもかかわらず、解決の困難な場合もあると言われます。

こんなとき、どうしたらいいのか。関係機関や刀に関わるすべての方々が知恵を出し合い、解決の方向を見つけるために、具体的な事例を集めてご紹介いたします。

事例①

〈経緯〉1カ月前の登録審査会で発行した登録証に裏年紀の記載がないことを発見し、電話にてその旨を伝えたと、次回の登録審査会に現物の刀と登録証を持参するように言われました。

持参して登録審査員に見せたところ、「登録証の筆跡は〇〇先生だから、書き替えてくれるでしょう」と言われましたが、事務局の方で否決されました。理由は「合わせ登録証の可能性があるので、全国照会してから答を出す」とのことでした。

〈対応〉年月が経っている場合は致し方ないですが、つい1カ月前の出来事です。石橋を叩いて渡るのはいいですが、明らかに審査員の手違いなのに非を認めず、時間をかけるのはいかがなものでしょうか。

登録証はその後、手数料を支払い再発行してもらいました。

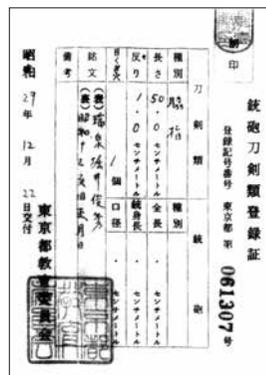
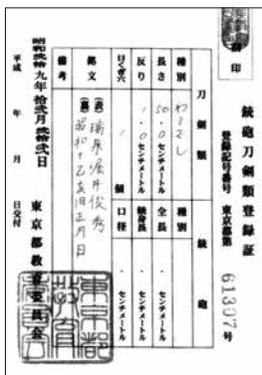
事例②

〈経緯〉脇指を購入して名義変更届を出したところ、数日して教育委員会から電話が来ました。「記録内容が違いますから、現物審査を受けてください。追って日時について通知しますからご来庁ください」と。「どこが台帳と違っていませんか?」「それについてはお答えできません」

キッパリ言われてしまいましたので、審査日に刀を持って弊社社員が会場まで伺いました。審査会場

に時間までに着くために、前日から刀を自宅に持ち帰ってもらいました。会場までの移動時間、待ち時間、帰りの時間、合わせると半日では済みません。その間仕事はできませんから、経営者から言わせてもらおうと間違いなく損害が発生しています。

〈対応〉帰ってきた社員に、「どこが違っていたの」と聞いたところ、「ここなんですよ」と困った顔をしています。新しく発行された証書を見たところ、アレって感じです。これは私たちには全く関係がない、ただのナンバーの押し間違え? こんなことがあっていいのでしょうか。皆さんはいかがお思いでしょうか? ちなみに再発行の手料は無料でした。



右が再発行した登録証

事例③

刀剣を購入した場合、所有者変更届を購入後20日以内に行うことが銃刀法で定められている。購入したすべての刀剣にやっているが、私の商いで毎月30件はある。刀剣の仕入れ販売を業とする刀剣商にとってその負担は軽くない。

法令を遵守し、真面目に所有者変更届を行うと、登録証の記載内容と現物が相違している場合が少なからずある。

その場合、現物と記載内容を一致させるために交付した教育委員会に連絡し、私の所在する千葉県の登録審査会で現物確認を行うことになる。その後、千葉県から交付先に審査結果が報告され、現物が登録台帳の刀剣と一致すると認められる場合は、交付先が訂正交付を行う。

しかし一致しないとすると、千葉県が全国の教育委員会に照会をかけ、該当がない場合は千葉県で新規の登録となる。訂正は無料だが、新規交付の場合

は収入証書代6,300円を支払わなければならない。

あらかじめ相違がわかっていたら購入を控えることもできるが、購入後に発覚する場合がままある。事務の増加のみならず、コスト負担も看過できない。加えて、千葉県では登録審査会が年に4回しか開催されない。売買できず、在庫として抱える期間が長期化する。

相違していた点は、銘の読み・書き違い、裏銘の記載漏れ、目釘穴数や寸法の違いが多い。銘に関しては、ほとんどが事務方のミスと思える。

ミスを認めて訂正交付を行う場合はまだ良い。明らかに現物が一致していると思われながら、記載ミスを認めずに現物不一致扱いにする教育委員会もある。納得がいかず抗議しても、取り合ってもらえない。“お役所仕事”を痛感する。

刀剣商にとって登録証問題は深刻である。所有者変更届の数は近年うなぎ登りに増えていると思われる。前述の状況が改善されなければ、積極的に登録証を訂正しようと思うことはできない。

暮らしの中のさまざまなことが見直され、便利になる今の時代、登録証も例外ではない。登録証問題が解消するよう、役所の柔軟な対応変化を切に望む。

事例④

〈経緯〉 昨年の夏ごろ、登録証の行方がわからない10振ほどの刀剣の買い取りの話があった。その中に「八代住吉次」という身幅広く大切先、湾れに互の目を交え、刀身彫の入った豪壮な現代刀があった。

何はともあれ発見届の手続きをしようと、客先の葛飾警察署に同行したが、「平成元年」の年紀が入っており、中心なども明らかに現代刀とわかるものだったため、本来、製作承認を経るべき一般的な現代刀に対して新規登録をするための発見届は出せない、と断られてしまった。

再登録などの手続きをするにしても、所持者が代替わりしており、元々あったはずの登録証の控えもなかったため不可能だった。

現所有者および筆者から刀が発見された経緯などを述べたところ（先代の所持者が刀剣店から購入した際の領収書などがあった）、警察からは事件性がないと判断され、一度持ち帰って東京都教育委員会と相談する許可を得た。

〈対応〉 後日、東京都教育委員会に電話し、銘文や寸法などから全国照会をすることとなった。

幸いにも合致しそうな刀剣が熊本県の登録で4点

見つかり、そのうちの1点は寸法が数ミリ以内の差であるという。しかしながら、その4点のいずれにも彫物がないという問題が発生した。こうなってくると、登録時の台帳に彫物の記載をしなかったか、後から入れたが申請し損ねたか、はたまた全く違う物件なのか、見当がつかなくなってしまった。

次に、吉次刀匠への連絡を試みた。吉次刀匠は全日本刀匠会には所属しておらず、自力での調査は困難であったが、刀匠同士なら交流があるのではと考え、若手刀匠に声をかけたところ、連絡先が見つかるも残念ながら既に他界されており、そのご子息も家業は継いではいなかった。

万策尽き、あらためて葛飾警察署に、上記のような状況なので何とか新規登録するわけにはいかないと相談したところ、仮にここで発見届をし、都庁で登録証を発行できたとしても、その後登録証の台帳を東京都公安委員会が確認し、冒頭で述べた理由（平成元年と入った刀に新規という処理はできない）で、登録証発行自体が取り下げられる可能性が高いと伝えられた。

最後に、所有者の筋から手掛かりがないか模索した。当物件を取り扱った刀剣店は既に閉店しており、前述の4件の名義も刀剣店主および先代の所持者と合致しなかった。そこで、葛飾警察署と熊本県教育委員会の協力を得て、あらためて当物件に合致する可能性が最も高い登録番号の現所有者の所在の確認と、吉次刀匠のご子息に連絡を取り、吉次刀匠が作刀した資料などが残っていないか、また当物件が間違いなく本人が作刀したものであるかの確認を依頼した。

それから数カ月後、葛飾警察署から連絡があった。

まず、当物件に該当するとおぼしき登録番号が、作刀されて以来名義変更されていなかった。また、吉次刀匠のご子息との連絡も取れて、当物件が本人の作であることが確認でき、さらに登録番号も一番近いもので間違いのないということだった。

これにてようやく本物件の正式な登録番号が判明し、これに後で彫物を施したということで熊本県教育委員会に申請をすることが可能となり、近々東京都教育委員会での代理審査を経て、登録証が発行される見通しとなった。

登録証の日ごろからの控えの作成と、名義変更の重要性をあらためて痛感した。関係各位にはお礼申し上げます。（登録証問題研究会）

議 事

全国刀剣商業協同組合は平成28年5月17日(火)、東京美術倶楽部において第29回通常総会を開催した。交換会開催も相まって、朝早くから全国各地より多数の組合員が参集された。

午前10時、司会者の松本義行理事より総会出席状況の報告があり、組合員総数178名中出席67名、委任状提出77名、合計144名と過半数に達したため、総会は成立することが告げられた。

続いて猿田慎男副理事長が開会の辞を述べ、次いで深海信彦理事長より挨拶があった。次に司会者が議長選出に入ったところで、会場より「司会者一任」との声がかかり、司会者が深海理事長を指名した。直ちに議案の審議に入った。

議案は次の通り。

第1号議案 平成27年度事業報告承認の件

議長は平成27年度の事業報告を清水儀孝専務理事に求めた。指名を受けた清水専務理事は別紙事業報告の概要を述べ、その内容を説明報告した。議長はその承認を議場に諮ったところ、満場一致をもって異議なく承認された。

平成27年度会計報告承認の件

続いて議長は、伊波賢一常務理事に別紙平成27年度決算報告書を説明報告させた。その後、木村義治監事より別紙平成27年度の決算報告書が適正正確であった旨の監査報告があり、これを議場に諮ったところ満場一致をもって異議なく承認された。

第2号議案 平成28年度事業計画(案)決定の件

議長は、清水専務理事に別紙原案を朗読説明さ

せた後、これを議場に諮ったところ、満場一致をもって異議なく原案通り可決した。

第3号議案 平成28年度収支予算(案)決定の件

議長は、伊波常務理事に別紙原案を朗読説明させた後、これを議場に諮ったところ、満場一致をもって異議なく原案通り可決した。

第4号議案 役員報酬の件

議長は、服部晁治常務理事に別紙原案を朗読説明させた後、その承認を議場に諮ったところ、満場異議なく原案通り可決した。

第5号議案 経費の賦課及び徴収に関する件

議長は、服部常務理事に別紙原案を朗読説明させた後、その承認を議場に諮ったところ、満場異議なく原案通り可決した。

第6号議案

平成28年度借入金残高の最高限度に関する件

議長は、服部常務理事に別紙原案を朗読説明させた後、その承認を議場に諮ったところ、満場異議なく原案通り可決した。

第7号議案

1組合員に対する貸付け、又は1組合員の為にする債務保証の残高の最高限度に関する件

議長は、服部常務理事に別紙原案を朗読説明させた後、その承認を議場に諮ったところ、満場異議なく原案通り可決した。

第8号議案 その他

議長は、その他についての趣意を議場に問いた。特に議場に諮る件はなく、異議なく承認された。

以上をもって議事を終了したので、議長は閉会を告げ、冥賀吉也副理事長が開会の辞を述べ、午前11時散会した。



第29回通常総会の会場風景

平成27年度事業報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

I 事業活動の概況に関する事項

組合員のご協力により、平成27年度の組合は大過なく活動を遂行することができました。

主たる共同販売事業である「大刀剣市」は例年通り東京美術倶楽部において開催され、別紙収支明細書に見られるように、ある程度の事業収入を上げることができました。

一方の市場運営事業は予算案達成に苦慮しており、一層の努力が求められる状況にあると同時に、新たな事業展開も視野に入れる必要性も検討されるところです。

教育情報事業の一環として平成23年度9月より発行しております組合新聞『刀剣界』はかつては見られないほどの内容充実度により業界内外の評価が高まっており、刀剣界の発展に寄与するところ大なるものがあります。これらの事業が一部組合員の負担によるものではなく、全組合員のさらなる協力のもと継続してゆくことが望まれます。

II 運営組織の状況に関する事項

1. 組合員数及び出資口数（出資1口20,000円）

	前年度末現在		期間中移動				本年度末現在		
	組合員数	出資口数	加入組合員数	出資口数	増資出資口数	脱会組合員数	出資口数	組合員数	出資口数
計	176	1863	5	25	0	4	42	177	1846

賛助会員80名

2. 直前3事業年度の財産および損益の状況

(当該事業年度は含まない)

	平成27年3月28期	平成26年3月27期	平成25年3月26期
項目	前期	前前期	前前前期
資産合計	93,802,539	86,983,555	106,170,574
純資産合計	76,665,774	77,026,229	77,692,954
事業収益合計	50,337,890	54,811,110	62,970,638
当期純利益金額	19,545	▲576,725	5,757,653

3. 組合組織

(1)役員：理事17名、監事2名

- (2)役職：理事長1名、副理事長2名、専務理事1名、常務理事2名
(3)相談役(2名)：朝倉万幸、柴田和夫
参加(2名)：齋藤雅稔、伊波徳男
(4)事務局：職員2名
(5)組織：①経済委員会、②金融委員会、③総務委員会
(6)関連団体：全国中小企業団体中央会

4. 会議開催概要

第28回通常総会

平成27年5月17日 於東京美術倶楽部

出席60名、委任状34名

第1号議案：平成26年度事業報告承認の件、承認
平成26年度会計報告承認の件、承認
監査報告、承認

第2号議案：平成27年度事業計画案決定の件、可決

第3号議案：平成27年度収支予算案決定の件、可決

第4号議案：役員報酬の件、可決

第5号議案：経費の賦課および徴収に関する件、可決

第6号議案：平成27年度借入金残高の最高限度に関する件、可決

第7号議案：1組合員に対する貸付け、または1組合員の為にする債務保証の残高の最高限度に関する件、可決

第8号議案：役員改選に関する件、承認

第9号議案：その他、可決

理事会

第6回 平成27年4月17日

第1号議案：第28回通常総会に向けて

第2号議案：組合新規入会申込者承認の件、承認

第3号議案：その他

第28回通常総会 平成27年5月17日 役員改選選挙

第1回理事会 理事長選出選挙、承認

第2回 平成27年6月17日

第1号議案：新執行役員発表、承認

第2号議案：今季委員会構成について、承認

第3号議案：その他

第3回 平成27年10月23日

第1号議案：「大刀剣市」について

第2号議案：新規組合入会、承認

第3号議案：その他

第4回 平成28年1月17日

第1号議案：組合法令遵守について

第2号議案：その他

第5回 平成28年2月17日

第1号議案：組員不払いの件

第2号議案：その他

第6回 平成28年3月17日

第1号議案：組員不払いの件中間報告

第7回 平成28年4月16日

第1号議案：総会に向けて

第2号議案：新規組入会、承認

第3号議案：刀剣評価鑑定資格の件

経済委員会

常務会2回、経済委員会12回、金融委員会5回、
総務委員会8回

5. 慶弔事項

*弔事

組 合 員：奥谷憲司（ご母堂様）

III 事業別概要

1. 経済委員会の事業活動

①市場運営事業

交換会が12回開催されました。出来高は下記の通りです。

	会場	日時	出来高(円)	出席数
第1回	東京美術倶楽部	平成27年4月17日	7,160,500	44
第2回	〃	5月17日	9,745,000	71
第3回	〃	6月17日	12,223,500	55
第4回	〃	7月17日	11,888,500	53
第5回	〃	8月23日	8,282,000	49
第6回	〃	9月17日	13,061,000	49
第7回	〃	10月23日	11,169,000	65
第8回	〃	11月17日	5,334,000	41
第9回	〃	12月17日	13,404,500	56
第10回	〃	平成28年1月17日	7,692,500	43
第11回	〃	2月17日	10,725,500	49
第12回	〃	3月17日	10,406,000	50
計			121,092,000	625

②共同販売促進事業

現在のところ唯一の共同販売事業である「大刀剣市」は11月20日から22日の3日間、産経新聞社等の後援のもと、東京美術倶楽部において74店舗の参加により行われました。初回から続いております「お宝鑑定」は、古物営業法の改正により鑑定希望者数と売却希望者数が共に減少傾向にありますが、現代刀匠の協力による「銘切りの実演」は依然として好評で、毎年のNHKの大河ドラマ

に因んだ刀剣等の「特別展示」も来場者のニーズに合致して好評を博しております。

また、カタログの売れ行きも好調で会期中にはほとんど完売の状況にあります。

しかし、この「大刀剣市」も一部の組員の多大な負担の上に成り立っており、現在のように平素の組合活動には一切参加せずに「大刀剣市」のみに出店料を支払って参加している組員が一部に見られることは、組合の理念であるところの「相互扶助」の精神とはかけ離れたものとの批判も高まっており、実行委員会では参加資格を含めて検討段階に入っているところであります。

(円)

事業収入	31,367,770	
総事業支出		22,915,003
事業利益		8,452,767
合 計	31,367,770	31,367,770

③共同購買事業

	「美術刀剣所有者変更届書」		販売中
	「やさしいかたな」		販売中
書 籍	骨董 緑青	在庫 45冊	販売中
	肥前刀備忘録	在庫 11冊	販売中
	佐野美術館図録(戦国武将の装い)	在庫 7冊	販売中
	〃 (備前一文字)	在庫 3冊	販売中
	越前守助広大鑑	在庫 29冊	販売中
	神津伯押形	在庫 18冊	販売中
	座忘鐔撰	在庫 16冊	販売中
	現代刀名作図鑑	在庫 19冊	販売中
	甲冑武器重要文化資料	在庫 4冊	販売中
	大名家秘蔵の名刀展	在庫 53冊	販売中
	伝統美と匠の世界	在庫 23冊	販売中
	伝承の技と匠の世界	在庫 55冊	販売中
	日本刀の悠久の美を見つめて	在庫 20冊	販売中
	名刀と日本人	在庫248冊	販売中
	日本刀の教科書	在庫 11本	販売中
	備前刀剣王国	在庫 26本	販売中

2. 金融委員会の事業活動

昨年同様、組員各位、交換会の立替金として商工中金からの借入をこれに充当している。

3. 総務委員会の事業活動

①共同宣伝事業

イ、「大刀剣市」ならびに併催イベント

ロ、「大刀剣市」およびイベントに関する記事掲載：産経新聞社・読売新聞社・日経新聞・フジサンケイ ビジネスアイ・刀剣美術・他 新聞各紙（日刊スポーツ、報知新聞、夕刊フジ、東京スポーツ）

- ハ. その他関係機関、団体に季節広告等
- ② その他
 - イ. 「大刀剣市」開催時における「明美ちゃん基金」への寄付を募る
 - ロ. 組合員の慶弔庶務事項の処理
 - ハ. 理事会、組合規約、事業計画案等の文書作成

- ターネットへの広告発信
- ・産経新聞・読売新聞・日経新聞・フジサンケイビジネスアイ・刀剣美術他への刀剣類関係の記事掲載
- ・カタログ作成配布
- ・業界他団体との共同事業計画（刀匠会・保存協会・刀文協）
- ・他関係機関、団体への季節広告

平成28年度事業計画

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

本年度は、組合員の増加ならびに各委員会の内容充実を主題とし、より一層の組合員結集強化と経済情勢を眺みながら各委員会の活動拡大、関係諸団体との連携を深め、組合並びに組合員の社会的・経済的地位の向上を図る。そのために、組合員に一定の資格を与える事業を基軸として、一般に対する検定事業をも視野に入れた活動を開始する。

1. 経済委員会の事業活動

①市場運営事業

本年も、昨年と同様に交換会を実施し、開催日を毎月17日と決めました。

- (1)開催 12回
- (2)会場 東京美術倶楽部
- (3)方法 交換会規約に基づく
- (4)取引高 各回1,300万円
- (5)手数料 4%
- (6)経費 一開催45万円(40～45万円)

②共同販売事業（「大刀剣市」とイベント）

昨年同様、東京美術倶楽部にて11月18日(金)・19日(土)・20日(日)の3日間に開催を予定しております。

③共同購買事業

書籍、手入道具等、付帯用品の共同購買を継続します。

2. 金融委員会の事業活動

既に実施された融資を継続して行います。

特定金融機関 → 組合員
(組合保証)

3. 総務委員会の事業活動

①教育情報事業

- ・『刀剣界』『全刀商』等の新聞発行

②資格事業に関する指導、教育並びに情報の収集と提供

③共同宣伝事業

- ・「大刀剣市」とイベント時の新聞・業界紙・イン

④古物営業法に伴う諸作業

⑤その他

- ・盗難品触れの配布、関係団体との折衝、通知資料の配布

平成28年度収支予算

(収入の部)

科目	金額	備考
市場運営営業収入 交換会受取手数料	¥7,440,000	通常交換会 ¥6,240,000 (13,000,000×4%×12回) 会費収入 ¥1,200,000
共同販売事業	¥29,550,000	大刀剣市収入金
賦課金収入	¥2,560,000	組合員(180人×¥12,000) 賛助会員(83人×¥5,000)
事業外収入	¥5,200,000	受取利息、雑収入、その他の事業収入
合計	¥44,750,000	

(支出の部)

科目	金額	備考
事業費	¥30,900,000	
市場運営 共同販売事業費	¥4,800,000 ¥22,000,000	交換会運営費(会場費・手当・食事代他借入れ利息) 大刀剣市開催費用 (会場設営・全国紙広告代・カタログ作成等他)
教育情報費 事業運営費	¥4,000,000 ¥100,000	組合新聞発行(刀剣界・全刀商誌)他 総会、他の事業費
一般管理費	¥13,850,000	
職員給料手当	¥7,300,000	職員給与与 人件費等
事務消耗品	¥700,000	リース料・カウンター料・事務消耗品等
通信費	¥800,000	インターネット・TEL・携帯・宅配・メール便・電報
旅費交通費	¥700,000	定期代他・査定交通費・運搬交通駐車場費等
会議費	¥20,000	理事会、委員会他
交際費	¥100,000	渉外関係
水道光熱費	¥145,000	ガス・水道・電気
諸会費	¥300,000	関係団体
支払手数料	¥1,100,000	顧問料(経理士・司法書士)
福利厚生費	¥1,200,000	社会保険料・労働保険料他
広告宣伝費	¥350,000	組合ホームページ
慶弔費	¥40,000	慶弔費
管理費	¥575,000	スカイプラザ(組合)
雑費	¥20,000	アルソック警備費他
租税公課	¥500,000	諸税金・印紙
合計	¥44,750,000	¥44,750,000

4. 役員報酬の件

役員は無報酬とする。

5. 経費の賦課および徴収に関する件

本組合の平成28年度12ヵ月分の賦課金は次の方法により徴収する。

①定額一律賦課徴収

現金または振込一括納入 1,000円×12ヵ月=12,000円
賛助会員 = 5,000円

6. 平成28年度借入金残高の最高限度の件

組合事業振興資金に充てるため金融機関からの借入金残高の最高限度額を2億円と定める。

7. 1組合員に対する貸付け、または1組合員のためにする債務保証の残高の最高限度に関する件
1組合員に対する貸付け、または1組合員のためにする債務保証の残高の最高限度を3,000万円と定める。

新組合員・賛助会員紹介

平成27年4月以降に新規加入・独立加入された組合員・賛助会員の皆さまです。

組 合 員

倉田藤彦・鶴田一成・天野智弘

賛助会員

藤井敏樹・三好正和・平井貞夫・斉藤富美雄・稲田和彦・村上雅弘・並川平兵衛商店・海道正義・渡辺恒男・深町正男・要堺市郎・宮藺士朗・三島宣知・七森克次・井戸誠嗣・三上高慶・吉田勲・藤井一雄・飯田茂子

平成28年度役員・委員会構成

役 員	
理事長	深海信彦
副理事長	猿田慎男・冥賀吉也
専務理事	清水儀孝
常務理事	伊波賢一・服部暁治
理事	赤荻 稔・飯田慶久・佐藤 均・嶋田伸夫・生野 正・瀬下 明・綱取譲一・土肥豊久・松本義行 持田具宏・吉井唯夫
監 事	大平岳子・木村義治

委 員 会	
各委員会代表 深海信彦（理事長） （○印は部会長）	
1 経済委員会	
委員長	猿田慎男
副委員長	赤荻 稔・瀬下 明
① 市場運営部会	
	赤荻 稔・木村義治・佐藤 均・猿田慎男・瀬下 明・土肥豊久・松本義行
買高担当	○清水儀孝・綱取譲一・服部暁治
② 共同宣伝部及び共同販売促進部会「大刀剣市」	
	○冥賀吉也・赤荻 稔・飯田慶久・伊波賢一・大平岳子・木村義治・佐藤 均・猿田慎男・嶋田伸夫 清水儀孝・生野 正・瀬下 明・綱取譲一・土肥豊久・服部暁治・松本義行・持田具宏・吉井唯夫
③ 評価鑑定部会「大刀剣市」	
	赤荻 稔・飯田慶久・伊波賢一・木村義治・佐藤 均・猿田慎男・嶋田伸夫・清水儀孝・生野 正 瀬下 明・綱取譲一・土肥豊久・服部暁治・深海信彦・松本義行・冥賀吉也・持田具宏・吉井唯夫
2 金融委員会	
委員長	服部暁治
副委員長	嶋田伸夫・綱取譲一・松本義行
① 共同購買部会「書籍等」	
	○嶋田伸夫・生野 正・服部暁治・冥賀吉也
3 総務委員会	
委員長	冥賀吉也
副委員長	清水儀孝・服部暁治
委員	赤荻 稔・大平岳子・伊波賢一・佐藤 均・嶋田伸夫・生野 正・瀬下 明・松本義行・持田具宏 吉井唯夫
① 資格検定事業部会「刀剣評価鑑定士」資格検定事業関連	
	○深海信彦・猿田慎男・冥賀吉也・清水儀孝・伊波賢一・服部暁治・赤荻 稔・飯田慶久・佐藤 均・ 嶋田伸夫・生野 正・瀬下 明・綱取譲一・土肥豊久・松本義行・持田具宏・吉井唯夫・大平岳子・ 木村義治
② 調査研究部会（インターネット関連含む）	
	○嶋田伸夫・佐藤 均・生野 正・青年部
③ 教育情報部会（「刀剣界」及び「全刀商」編集 編集長 土子民夫）	
	赤荻 稔・飯田慶久・伊波賢一・佐藤 均・猿田慎男・嶋田伸夫・清水儀孝・生野 正・瀬下 明 綱取譲一・土肥豊久・服部暁治・深海信彦・松本義行・冥賀吉也・持田具宏・吉井唯夫
④ 防犯対策部会	
	○伊波賢一・飯田慶久・猿田慎男・深海信彦
⑤ 福利厚生部会	
	○吉井唯夫・大平岳子・持田具宏
4 青年部	
	飯田慶雄・大平将広・大西芳生・新堀 徹・新堀賀将・高橋正法・土肥富康・服部一隆・冥賀亮典 藤田佑介

平成27年度組合活動の記録

(平成27年4月1日～28年3月31日)

- 4月3日 刀剣鑑定のため、清水専務理事・服部常務理事が横浜地方裁判所に出張
- 7日 東京美術倶楽部にて開催された全国美術商連合会に伊波常務理事が出席
- 10日 刀剣鑑定のため、深海理事長が兵庫県警察本部に出張
- 14日 東京美術倶楽部にて開催された全国美術商連合会に深海理事長が出席
- 16日 東京美術倶楽部にて平成26年度会計監査を笠原・佐藤両監事が行う。清水専務理事・服部常務理事・事務局濱崎道代氏が出席
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加44名、出来高7,160,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。理事15名、監事2名が出席
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第23号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・大平将広氏・瀬下昌彦氏・土肥富康氏・松本義行氏・土子民夫氏
- 21日 刀剣鑑定のため、服部常務理事・瀬下昌彦氏が兵庫県警察本部に出張
- 5月10日 銀座長州屋にて『刀剣界』第23号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・服部常務理事・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて第28回通常総会を開催。出席60名、委任状34名、計94名。役員選任投票により新理事17名、監事2名選ばれる。深海信彦氏、理事長に再任される
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加71名、出来高9,745,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて『全刀商』第24号・『刀剣界』第24号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・伊波常務理事・服部常務理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・飯田慶雄氏・瀬下昌彦氏・土肥氏・土子氏
- 26日 新旧役員懇談会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・飯田理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・大平監事・高橋前理事
- 6月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『全刀商』第24号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・持田理事・松本理事・土子氏
- 5日 当組合顧問・町村信孝衆議院議員告別式に深海理事長が参列
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加55名、出来高12,223,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・吉井理事・大平監事・木村監事
- 17日 東京美術倶楽部にて『全刀商』第24号・『刀剣界』第24号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・飯田氏・大西芳生氏・瀬下氏・土肥氏・土子氏
- 25日 公益財団法人日本美術刀剣保存協会小野会長・柴原専務理事・志塚常務理事と情報交換。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・飯田理事・嶋田理事
- 26日 深海理事長・清水専務理事・服部常務理事が警察庁生活安全課を訪問、第28回通常総会の結果等を報告
- 26日 深海理事長・清水専務理事・服部常務理事が産経新聞社事業部を訪問、新担当者松本氏と懇談、「大刀剣市」の後援を依頼
- 26日 銀座長州屋にて『全刀商』編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長、服部常務理事、生野理事、綱取理事、土子氏
- 7月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第24号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・木村隆志氏・土肥氏・土子氏
- 5日 『日刊スポーツ』に記事掲載
- 9日 銀座長州屋にて『刀剣界』第24号編集委員会を開催(念校)。出席者、深海理事長・

- 服部常務理事・生野理事・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加53名、出来高11,888,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」の打ち合わせ。その後『刀剣界』第25号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・大平監事・飯田氏・大西氏・大平氏・木村氏・土肥氏・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて大刀剣市カタログ掲載作品の第1回集荷
- 21日 組合事務所にて第1回撮影。担当者、清水専務理事・嶋田理事
- 24日 名刀会会場にて第2回集荷
- 27日 組合事務所にて第2回撮影。担当者、持田理事・松本理事
- 8月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて第3回集荷
- 3日 組合事務所にて第3回撮影。担当者、生野理事・大平氏
- 3・4日 大石カメラにて甲冑撮影
- 4日 組合事務所にて第4回撮影。担当者、清水専務理事・嶋田理事
- 11日 組合事務所にて大刀剣市カタログ掲載割り振り会議を開催。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・嶋田理事・生野理事・松本理事・大平氏・土子氏
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加49名、出来高8,282,000円
- 23日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第25号編集委員会を開催(初校)。出席者、冥賀副理事長・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・瀬下理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・土肥氏・土子氏
- 9月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第25号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・飯田氏・大平氏・木村氏・土肥氏・土子氏
- 4日 同美印刷にて大刀剣市カタログ編集委員会を開催(初校)。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・大平氏・齋藤隆久氏・冥賀亮典氏・土子氏
- 8日 銀座長州屋にて『刀剣界』第25号編集委員会を開催(念校)。出席者、深海理事長・生野理事・土子氏
- 8日 組合事務所にて伊波常務理事・嶋田理事が産経新聞社産経事業推進室松本氏と打ち合わせ。例年通り大刀剣市カタログ・チケット10セットの読者プレゼントを決める
- 11日 同美印刷にて大刀剣市カタログ編集委員会を開催(再校)。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・綱取理事・持田理事・土子氏
- 14日 アオバ企画高橋氏の提案により『読売新聞』広告掲載時に大刀剣市カタログ・チケット24セットの読者プレゼントを決める
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加49名、出来高13,061,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第26号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・大西氏・大平氏・木村氏・土肥氏・土子氏
- 24日 同美印刷にて大刀剣市カタログ編集委員会を開催(色校)。出席者、清水専務理事・生野理事・持田理事・土子氏
- 30日 同美印刷にて大刀剣市カタログ編集委員会を開催(色校)。出席者、清水専務理事・生野理事・土子氏
- 10月9日 大阪府立中之島図書館へ『刀剣界』第20～25号を寄贈
- 15日 大刀剣市カタログ入荷
- 20日 大刀剣市事前説明会に向けての打ち合わせ。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事・生野理事・持田理事
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加67名、出来高11,116,900円
- 23日 東京美術倶楽部にて大刀剣市出店者事前説明会を開催
- 23日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・飯田理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・土肥理事・松本理事・持田理事・吉井理事・大平監事・木村監事
- 23日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第26号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・大西氏・大平氏・土子氏

- 27日 新宿警察署古物講習会に組合より生野理事が参加
- 29日 日刀保小野会長・柴原専務理事・福本常務理事・志塚常務理事・田野辺道宏氏・小林暉昌氏と当組合深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事が意見交換会を開催
- 11月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第26号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・大西氏・大平氏・木村氏・土子氏
- 7日 全美連役員会に伊波常務理事が出席
- 9日 銀座長州屋にて『刀剣界』第26号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・服部常務理事・生野理事・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加41名、出来高5,334,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第27号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・木村氏・土子氏
- 20～22日 東京美術倶楽部にて第28回「大刀剣市」を開催。来場者は20日970名、21日965名、22日912名、計2,847名
- 12月17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加56名、出来高13,404,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第27号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・大西氏・木村氏・土肥氏・土子氏
- 17日 清水専務理事・服部常務理事・生野理事が産経新聞社を訪問、「明美ちゃん基金」に募金30万円を寄託
- 1月8日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第27号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・大西氏・木村氏・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加43名、出来高7,692,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・飯田理事・佐藤理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・土肥理事・吉井理事・木村監事
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第28号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・綱取理事・服部氏・土子氏
- 2月3日 銀座長州屋にて全国中小企業団体中央会の機関紙『中小企業と組合』の取材を受ける。出席者、深海理事長・清水専務理事・嶋田理事
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加49名、出来高10,725,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・飯田理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・土肥理事・松本理事・持田理事・吉井理事・木村監事
- 17日 東京美術倶楽部会場にて『刀剣界』第28号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・木村氏・土肥氏・土子氏
- 3月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第28号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・木村氏・土子氏
- 4日 清水専務理事・松本理事が丸の内法律事務所・森司法書士を訪問
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加50名、出来高10,406,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・佐藤理事・嶋田理事・瀬下理事・綱取理事・土肥理事・松本理事・持田理事・吉井理事・大平監事・木村監事
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第29号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・松本理事・持田理事・大西氏・木村氏・土肥氏・土子氏
- 30日 清水専務理事・松本理事が丸の内法律事務所・森司法書士を訪問

大刀剣市 2016

本年も東京美術倶楽部において
「大刀剣市」を開催いたします。

期日：11月18日(金)

19日(土)

20日(日)

全国刀剣商業協同組合

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10 新宿スカイプラザ1302

TEL03(3205)0601 FAX03(3205)0089



全刀商 第25号

平成28年7月10日発行

発行所 **全国刀剣商業協同組合**

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目18番10号 新宿スカイプラザ1302

Tel 03(3205)0601 Fax 03(3205)0089

発行人 理事長 **深海 信彦**

編集 **『全刀商』編集委員会**

赤荻 稔 飯田慶雄 伊波賢一 大西芳生 大平将広 木村隆志 佐藤 均 嶋田伸夫 清水儀孝 生野 正 瀬下 明 玉山真敏 土子民夫
網取譲一 土肥富康 服部暁治 深海信彦 松本義行 冥賀吉也 持田具宏
